

こんにちは。今回は、治験参加でかわること、気をつけることについてお話します。

普段の診察となりがかわるの？

一般の診察と治験を比較すると次の表のような違いが挙げられます。

比較の対象	一般の治療	治験
使用される薬は？	厚生労働省の承認済みの薬です。	厚生労働省の承認前の薬です。
薬を飲む目的は？	治療を目的として服用します。	治療を目的として服用しますが、試験的な側面もあります。
病院は？	患者さんが希望する病院で、どこでも治療を受けられます。	患者さんが希望しても、指定の病院以外受けることができません。
診察する医師は？	主治医以外の医師が診察することもあります。	治験担当医師（複数の場合もあります）が一貫して診察します。治験担当医師以外が診察することはありません。
診察時間は？	一般的には短時間です。	一般の治療より長くなることがあります。
検査内容は？	健康保険の適用範囲内で行われます。	一般の治療より、きめ細かな検査が行われます。
費用は？	健康保険が適用され、一定の割合で患者が治療費を負担します。	治験薬や検査費用など一部、自己負担が軽減されます。診察料などは健康保険が適用されます。

治験参加中に気をつけることは？

治験参加中は次のようなことに気をつけてください。

○日常生活では？

治験薬の飲み方や飲む回数を守る事、使わなかった薬は返却する事、治療を行う場合には必ず担当医師に伝える事などの注意があります。また、暴飲暴食を避け、なるべく生活習慣を変えないように心掛けてください。

○来院について

治験参加中は決められた来院スケジュールを守って定期的に受診していただく必要があります。また、都合が悪くなった場合は事前に申し出てください。

今回も治験新聞は最終回です。1年間ありがとうございました。

いっち～のひとりごと・・・

くすりの未来予想図 製薬協ホームページ 新薬の話(2006年)より抜粋

- 2009年 エイズの治療法が実用化/マラリアワクチンが普及
- 2010年 ある種のがんの発生を予防するくすりの開発
- 2011年 動脈硬化の発症機構の解明/がんの有効な生物学的・免疫学的治療法普及
- 2012年 がんの転移の機構の解明
- 2013年 すべてのがんの5年生存率が70%を超える/がん化の機構解明
- 2014年 悪性腫瘍に対する遺伝子治療の普及
- 2015年 薬物を脳内の目的部位に移行させる方法の開発
- 2016年 アルツハイマー型痴呆治療可能に/実験動物に代替する完全なテスト法開発
- 2018年 アレルギー性疾患完治可能に/統合失調症を完治させる治療法開発
- 2020年 遺伝子治療が内服薬で可能に

※あくまでも未来予想です。



全国どこでも処方箋も受付致します。“安心・安楽・迅速”がモットーの“なかよし薬局”です  
 船子店:046-220-6868  
 高森店:0463-90-2311  
 愛川店:046-284-2227  
 関口店:046-244-1011  
 愛甲店:046-248-7622  
 妻田店:046-222-2801  
 局前店:046-284-5200